片桐英数塾通信

全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

「読解力」を鍛えよう！

スマホから離れてみませんか？ 思考の海に潜ってみませんか？

二〇二一年も七月になります。今年度も、もう、三カ月が経ちました。それにしても速いものです。

七月と言えば夏です。高三生にとっては、いよいよ大学受験に向けて、本格的に追い込んでいかなければならない時です。高二生にとっても、高二の夏には、大学受験を意識した取り組みを始めておかないと、来年の一月の共通テスト模試では歯が立ちません。

そして、高一生は、七月にもなると高校生活にも慣れてきて、新しい友達もできて楽しい感じになってきているのではないかと思います。「まだ高一なんだから、大学受験まで時間があるし、この夏休みは遊ぼう」と思っていませんか？ ただ、気をつけておいてもらいたいことがあります。多くの高一生は、高校に入学してからの勉強を「中学の時よりも学ぶことも難しくなったし、覚えることも多くなった」と感じるものです。それで「やらないとついていけない」と緊張し、一学期の間、定期テスト、実力テストに頑張ります。ところが、一学期の期末テストも終わり、夏休みが近づいてくると、緊張感が緩んでしまう人が増えてきます。気をつけておいてもらいたいことというのは、高一生が「難しくなった。覚えることが増えた」と感じている一学期に習ったものは、実は高校で学ぶことの基本ばかりです。二学期からさらに難易度は上がり、覚えることが増えていきます。一学期に習った基礎事項は理解できているものとして、二学期が始まります。ですので、一学期で勉強したことで理解ができていないところは夏のうちに理解しておかなければ二学期以降がとてもつらくなります。高一の夏だからといって、油断せずにこの夏を過ごしてください。

さて、話は変わりますが、「受験ではいったい何が一番大事なのか？」、こんなことを聞かれたとします。こんなざっくりした質問には答えは無数にありそうなものですが、答えは割と一つのように思います。それは「読解力」というものだと思います。英語を長年教えてきた隆先生(じいちゃん)に「英語を伸ばすのに最も必要な力は何？」と聞けば、「それは、国語力(読解力)だ」と間髪を入れずに答えます。綾美先生もそうですし他の数学の先生に同じ質問をしても、「読解力だ」と答えます。教科は違えど、「読解力」に行きつきます。英語では単語を知り、文法・構文を知り、英文を読めるようになっても、書いている内容が理解できないと得点できません。センター試験ならまだ文法が問われる問題もあったのですが、共通テストになってからは、文法的なものはなくなり、さらに読解力が求められる試験になっています。また、数学の先生が「読解力」だと言う根拠としては、「問題は、何を言っているのか理解できないと解きようがない」ということから始まり、「この場合はこうなる。そしてこの場合は……」というように、論理的に思考する力が必要だからです。

では、「どうすれば『読解力』をつけることができるのか？」ということを考えてしまいます。かなり昔の話になりますが、私自身、国語では大きく悩んだ時期があります。現代文を解いていても手ごたえを感じることは少なく、返ってきた結果を見て愕然とするということも少なからずありました。ある日、なかなか現代文が伸びず、困り果てていたわたしは、たまたま本屋の現代文のコーナーで見つけた参考書を購入し、すがるような思いで読んでみました。

その本の具体的な内容は覚えていませんが、まず、線を引いたり印を付けたりしながら読むことが書かれていたと思います。文章を汚せと。特に重要なのは逆説の言葉。逆説の言葉には三角でチェックを入れるように書かれていました。それとキーワードやそれを言い換えた言葉にもチェック。そうやって、その参考書に書かれているようにひと通り書き込みますと、現代文の文章というよりも記号というか図というか、絵のようなものに文章全体が見えてきて、筆者の言いたいことがつかみやすくなりました。そうやって書き込みながら問題を解くようになってからは、評論文で失敗することは少なくなりました。ただ、小説の方は、主観が入り過ぎてしまって、なかなか向上せずに伸び悩む日々が続きましたが……。

元々本を読むのは好きな方ではありませんでした。しかし、先ほどの参考書を読み、そのとき覚えたやり方で、筆者の考えをおしはかりながら論理的に読むのが習慣になってくると、本を読むことが好きになりました。読書が好きになっただけでなく、書くのも好きになりました。たしかに大した文章ではありませんが、それでも十五年間、飽きずに毎月この「片桐英数塾通信」を書き続けてこれているのは、あの参考書があったからかなぁ、と考えています。

PISA調査で日本人の「読解力」が落ちていると騒がれたり、数年前に出た本で「AI vs. 教科書が読めない子どもたち(新井紀子著)」で子どもたちの「読解力」が問題になりました。今、「読解力」が問題視されることが増えてきていると感じています。

わたしなりに、中高生が「読解力」をつけるにはどうしたらいいのか？ と考えてみました。それには、考えながらたくさんの文章を読むしかないと思います。考えながら文章を読み込むには、書き込む必要があると思います。書き込むには紙でなければならないと思います。スマホの液晶ではなく、紙に印刷された文章に書きこむ必要があると思います。

それと、文章を論理的に把握するために読み込むには、深く潜るような深い思考が必要です。流し読みでは、高度な思考で書かれた文章は理解しきれません。深く潜るようなレベルの高い思考をスマホの画面を見ながらできるでしょうか？ 考えている途中で友達からLINEの連絡が来ても深い思考を続けられますか？ 深い思考は脳が疲れます。脳が疲れるとゲームなど脳に負担のかからない楽しいものに流されたくなるものです。そんなとき、その欲求を断ち切れますか？ 大人のわたしでもそれは無理です。やはり、深い思考を維持し、「読解力」を鍛えようとするには、紙に書かれた文章を書き込みながら読み込むしかないと思います。

ちょっとスマホと距離を取り、思考の海に潜ってみませんか。それだけで「読解力」は磨かれるように思えてなりません。

中学3年生夏期100時間特訓

今年もやります!!

7月22日(木)～8月31日(火) ☆中1・2年生対象夏特訓も実施！

集団授業と個別受講システムにより、基礎力の徹底・弱点補強をはかるとともに、応用発展問題にひるまない本物の力を養成します。さらに、受験生としての学習習慣を身につけられるよう指導します。香川県統一模擬試験も実施します。

※定員になり次第締め切らせていただきます。(詳しいスケジュールは直接お問い合わせください。)

受講生募集中！

～100時間特訓を受講した先輩の感想～

苦手な国語の小説の問題が少しできるようになった。連立方程式の活用に自信がついた。活用形をほとんど覚えられた。つづりをまちがえないようにしたい。 (A・Tさん)

苦手だった理科のイオン、電流のところの計算ができるようになった。集中力がついた。家でいたらゴロゴロして勉強できなかったと思うけど、夏期講習で長時間勉強できてよかった。 (Y・Mさん)

自分の苦手を克服できたと思う。勉強に集中することの大切さが分かった。映像授業で見た理科では、いろんな法則を根本から理解できたのでテストでもとても役に立った。 (R・Sさん)

むずかしい問題もあきらめずにきちんと考えることができるようになった。夏特訓に参加して、受験に向けて、勉強する習慣がついた。 (A・Yさん)

自分から進んで教科書を開き、毎日継続して勉強できた。数学では、苦手だった証明問題の解き方、合同条件の見つけかたなどを、しっかり身につけられた。英語では、様々な表現技法を覚えられた。 (K・Tさん)

苦手教科である国、社の点が上がり、第1回の診断と比べて、第2回は点がかなりのびました。苦手なところと得意なところを両方とものばすことができて、よかったです。 (Y・Sさん)

「この夏一気にレベルアップしたい!!」という高校生の皆さん！

片桐塾を120%活用しよう!!

役立つコンテンツがいろいろあります。
どの教科のどんなところで悩んでいるのか、
お気軽にご相談ください。(LINEでもどうぞ！)

片桐英数塾からのお知らせ

塾スタッフ募集中！

天神教室・坂本教室の7月のお休みは、
4日(日)、11日(日)、18日(日)、25日(日)です。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともにご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

塾生の皆さんでLINE登録がまだの方は、こちらのQRコードを読み取り、名前を送信してください。映像授業の予約、変更や面談などの予約、欠席のご連絡などLINEでいつでも受付けています。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

Copyright © 片桐英数塾. All Rights Reserved.